

奈良
祭時記
Vol. 33

県内の無形民俗文化財の保存活動を紹介します！

石見のノガミサン

撮影：野本暉房

大和の野神行事 雨乞いの神に豊作を祈る

奈良盆地では、「野神」は農業の守護神と考えられており、榎などの大木のある塚に祀られてきました。県内には現在約30カ所の野神行事がありますが、「石見のノガミサン」はその一つであり、毎年5月5日に雨乞いと五穀豊穣を祈願し、一年間の無病息災を願って行われています。また、端午の節句の行事なので男子の通過儀礼の側面もあってとされています。



ノガミサンの塚
形でこんもりとした森となっており、その中央に覆屋付きの祠が南向きに据えられています。

地域一丸となって

行事は15歳の男子(オヤ)と14歳の男子(コ)が中心となって行い、オヤの指揮のもとで進められます。

行事前日の5月4日に、氏神の鏡作神社の境内で蛇を作ります。蛇は稲わらで芯を作り、杉葉を芯に挿して蛇体らしく見せ、大きく開かせた口には赤布で丸く作った玉をくわえさせたもので、長さは3mにも及びます。「野神」の御神体は「ミーサン」と言われており、水をつかさどる巳(蛇)さんとされています。

三宅町石見で端午の節句の5月5日に行われている行事です。自治会長の寺田さんと、氏子総代の竹村さんにお話を伺いました。

5月5日には、朝6時頃からオヤとコ、その他関係者がはしごの上に蛇を乗せて、神社から「ノガミサンの塚」まで担いでいきます。現在は塚までの道中も慎重なものです。かつては勇ましい掛け声と共に、暴れながら担いで置きました。塚に到着後、蛇の頭を東向きに祠の前に置き、灯明をあげ、小豆餅や神酒、山海の幸などを供えて、一連の行事が終了します。

かつては村の各戸から集めた寄付金のお返しとして、行事後に一時間ほどかけ、子どもたちが準備した餅を村中に配っていました。現在は寄付金を集めていないため餅の配布は行わず、みんなで公民館に集まり、たけのこご飯を食べながら談笑します。

大切な行事を残すために

以前は10人を超える子どもが行事に参加していましたが、少子化の影響で年々参加者が減ってきています。そこで、昔は旧村地域のみで行事を行っていましたが、今は旧村以外を含めた自治体全体の行事として、女子や大人たちも一緒に参加しています。また、一人でも多くの子どもに参加してもらおうため、自治会の全ての班に回覧板を回して参加者を募り、当日参加してくれた子どもたちにお菓子を配るなど、行事を楽しんでもらえるような工夫も凝らしています。

一時は大人だけで行っていたこともありましたが、「ノガミサン」は子どもも参加してこそ行事です。これからも、より多くの子どもたちに参加してもらおうべく、地域の皆さんと協力しながら活動を続けていきます。



左から寺田さん、竹村さん

鏡作神社
所三宅町石見650

5月5日



無形民俗文化財については、県文化財保存課 ☎0742-27-8124 FAX0742-27-5386